

2020 年度卒業設計優秀作品 大学の部

金賞

懸郷抛 民俗文化財を基軸にした共助による空間

加倉 英晃 札幌市立大学デザイン学部デザイン学科人間空間デザインコース

銀賞

イサリビ継承—函館市入舟漁港の産業転換に伴う漁港再生計画—

立花 恵大 北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース

銅賞

北都開拓—まちづくりする劇場—

湖東 陸 北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース

銅賞

振る舞いの器—窪地と一体化した公園のような建築—

花岡 大樹 室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科

2020 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

金賞

Microcosmos

佐藤 春樹 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科

銀賞

直立し、たゆたう暮らし

池田 倫 青山建築デザイン・医療事務専門学校建築学科

銅賞

artificial respiration ～人工呼吸～

平塚 夕馬 北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科

2020 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

金賞

小樽板翔倉庫

阿部 大翔 北海道小樽未来創造高等学校建設科建築デザインコース

銀賞

北斗図書館～やすらぎ～

西村 風輝 北海道函館工業高等学校建築科

銅賞

緑のドッグラン

三上 航平 北海道旭川工業高等学校建築科



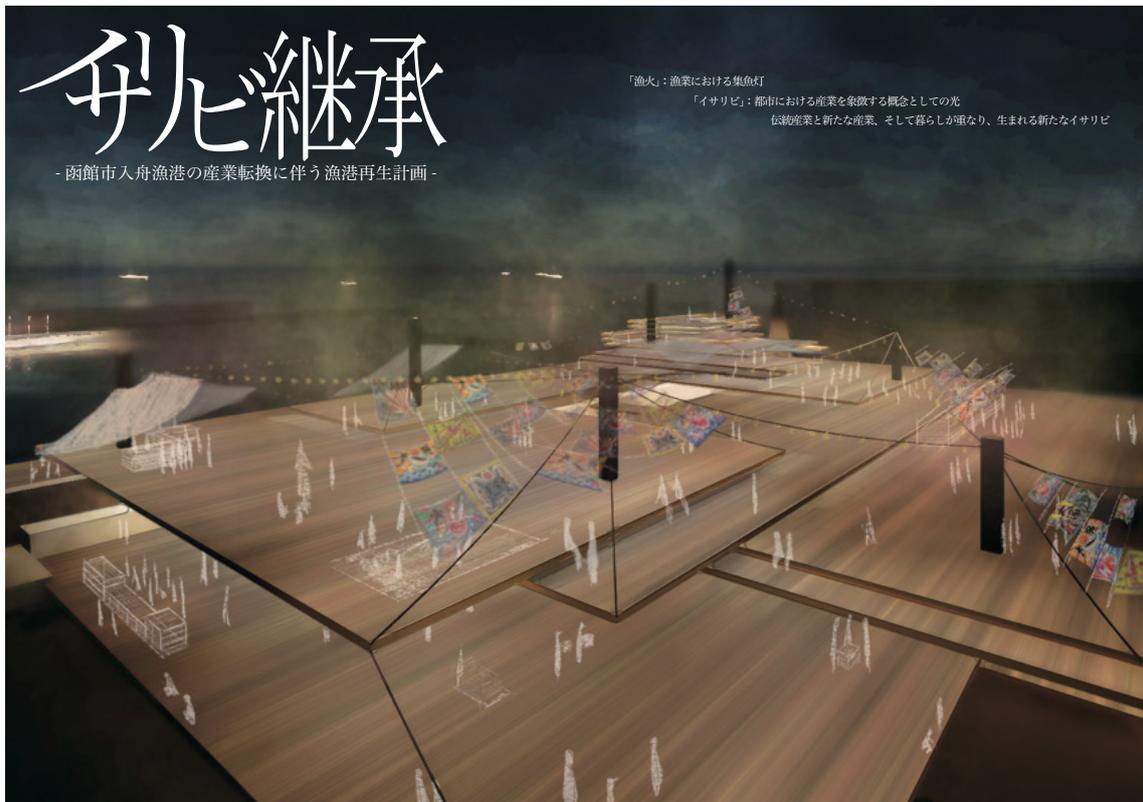
2020 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銀賞

イサリビ継承—函館市入舟漁港の産業転換に伴う漁港再生計画—

立花 恵大

北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース



函館市入舟漁港の再生計画。イカ漁を中心とした発展した漁港を、イカの養殖場・研究施設・セリ場・展望台と敷地の持つ特性を最大限活かし、一方で地域での歴史的施設の様々な部材・素材を施設に工夫活用する事で、歴史を継承した地域的アイデンティティーの高い独自の提案となった。スラブを基壇状に組み上げることで、領域が緩やかに区分され、スラブの重なりがかもめの巣も内包し、大漁旗や廃船の鉄板の活用で、独自の有機的な環境が実現している。港全体の土木的スケールの提案は、スラブの多層化や隙間の建築空間の確保により、ランドスケープと建築が融合した新たな「場所の創出」に成功している。(遠藤謙一良)

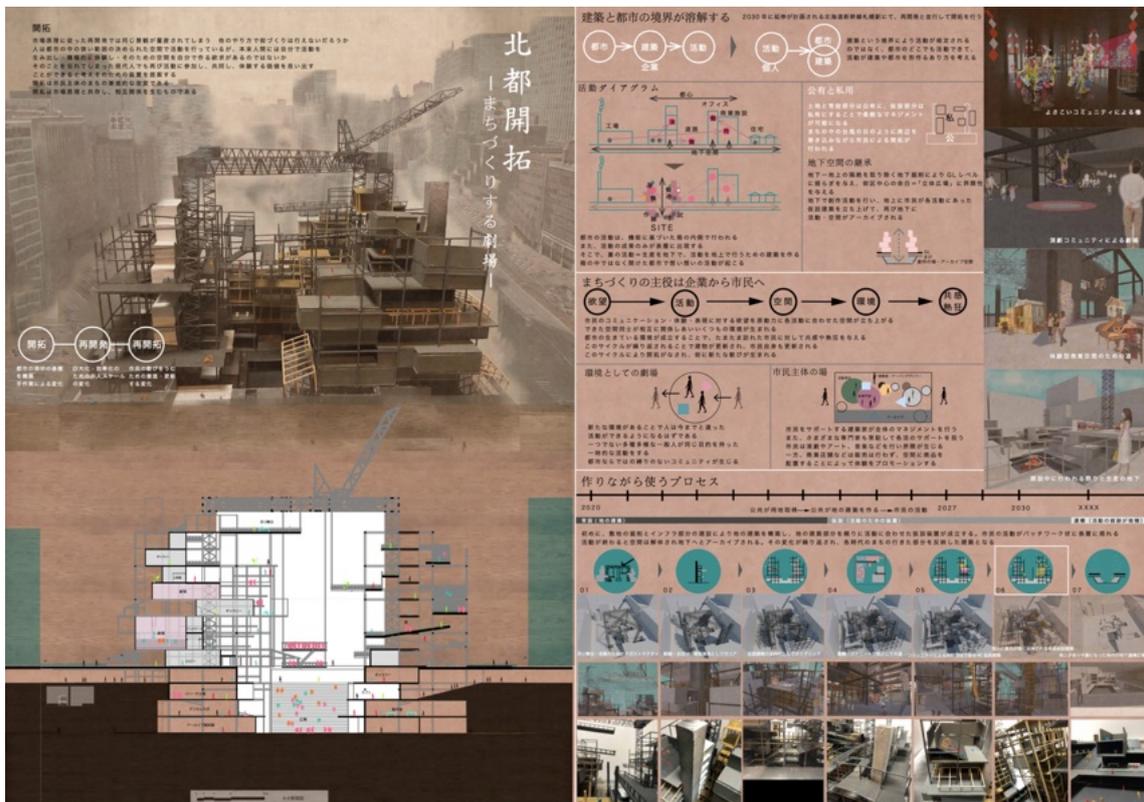
2020 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銅賞

北都開拓—まちづくりする劇場—

湖東 陸

北海道大学工学部環境社会工学科建築都市コース



高度成長期の建設現場の風景を感じさせる佇まいは、現代の都市開発のアンチテーゼとして、現代の経済原理の開発が同じ景観を生むのに対し、この計画は公共がスケルトンフレームを提供し、市民が個人の活動単位でこのフレームに空間をインサートする。その空間は新陳代謝を繰り返し、それは未完の都市風景となり、やがて役割が終わった空間は解体されこの場所の地下に埋められアーカイブされる。まさに「まちづくり劇場」である。かつてのメタボリズムにはない人間の尺度と時間軸で考えられ、どこかノスタルジーな空気感や人間味があり、かえって新鮮さと斬新さをおぼえる意欲作であった。(小西彦仁)

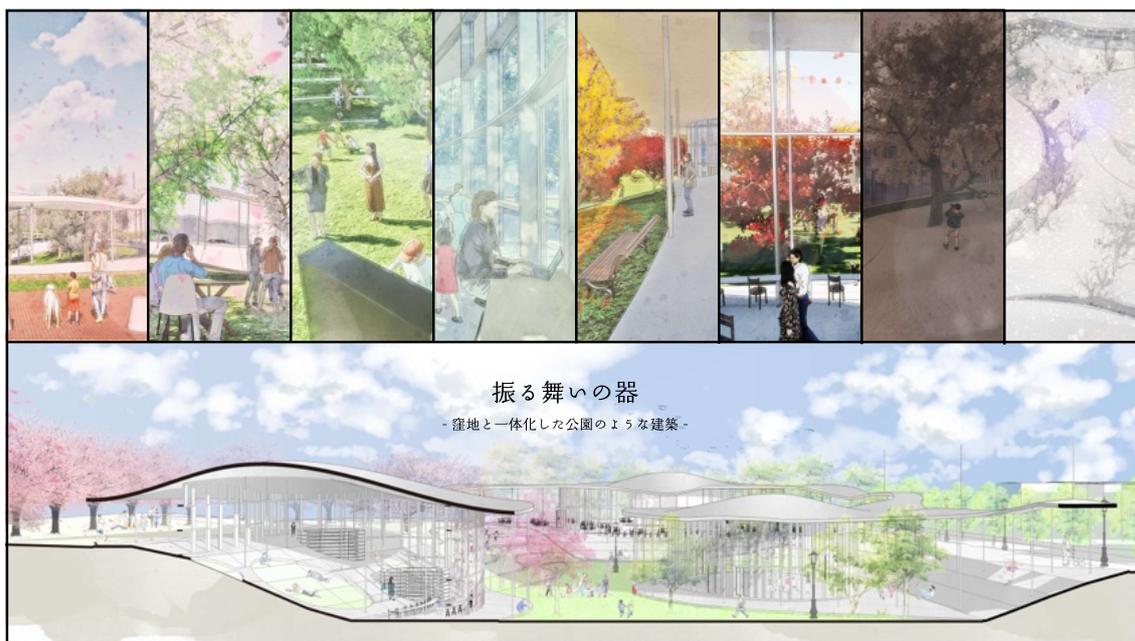
2020 年度卒業設計優秀作品 大学の部

銅賞

振る舞いの器—窪地と一体化した公園のような建築—

花岡 大樹

室蘭工業大学工学部建築社会基盤系学科



敷地の持つ地形的特徴と歴史的背景を活かしながら、人々の活動を自然に誘うような優しい建築の提案です。丁寧に描かれたパースからは作者の思い描く風景が、スケール感を抑えた断面計画からは利用者の居心地の良さが、しっかりと伝わってきました。一方、プログラムと造形からは、やや敷地の内に向けた計画との印象を持ちました。敷地周辺への広がりや波及効果なども大胆に提案できると、より良い作品になったと思います。以上の点より、銅賞にふさわしい作品と判断しました。(小倉寛征)

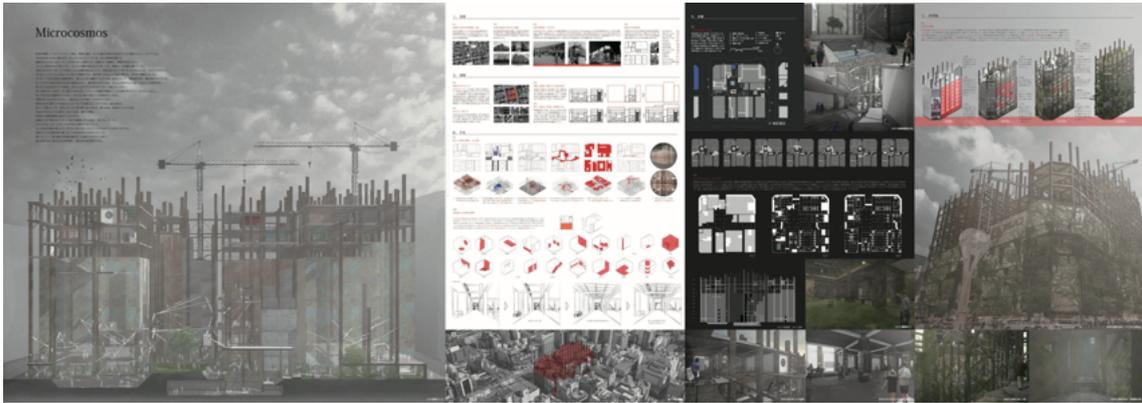
2020 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

金賞

Microcosmos

佐藤 春樹

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科



迫力のあるドローイングだ。そこには都市の時間の蓄積を見事にとらえた壮大なストーリーが込められている。すすきのに建つ商業施設を解体するでもなく、保存するでもなく、記憶として、痕跡として増築部分と共存している。現代のスクラップアンドビルドに対しての批判精神に基づく提案だろうが、既存部分を単なる廃墟として扱わず、新たなコミュニティ生成の場としてとらえ、過去、現在、未来が見事に共存する。ストーリーの確かさ、表現の豊かさから文句なしの金賞である。(菅原秀見)

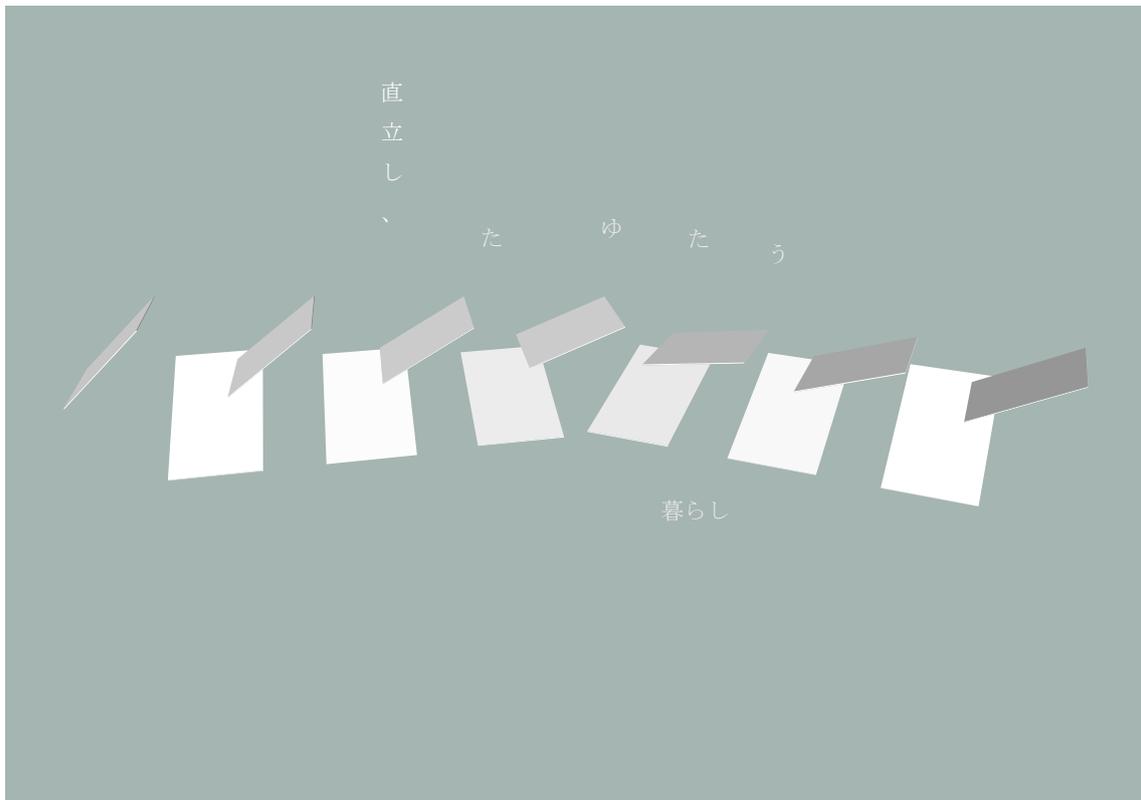
2020 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

銀賞

直立し、たゆたう暮らし

池田 倫

青山建築デザイン・医療事務専門学校建築学科



眺望のよい傾斜地に計画された集合住宅である。集まって住みながら多様な暮らしを実現するために様々なバリエーションのある住戸が詰まっている。最上階の屋根の連なりも異なる傾斜となっており、単調になりがちな集合住宅に個性を与えている。2種類の間口も入居世帯人数の変化への対応である。シンプルかつ丁寧な表現がコンセプトを明確に伝えていることが評価され、銀賞を与えるものである。(斎藤文彦)

2020 年度卒業設計優秀作品 短大・高専・専門学校の部

銅賞

artificial respiration ～人工呼吸～

平塚 夕馬

北海道芸術デザイン専門学校建築デザイン学科



建築は人の利用度が重要で、人が常に利用する建築は生き生きとしている。スタジアムは人の利用が限定され、作者が言う呼吸していない状態が続くと考え、そんな状況から呼吸するスタジアムを提案された。人の呼吸器や循環器と対応させスタジアム機能を考えることにより、作者の言う死んだ今までのスタジアムから、生きたスタジアムにすべく計画は丘状の緑化公園でスタンドを包み込み人工的で巨大な風景ではなく、地域のランドスケープとしても心地よい。しかし外部の緑化公園はよいとして、内部のスタンドは他のスタンドと何が違い人を呼び込むかが読み取れなかったのが心残りだが、完成度は高く評価された。(小西彦仁)

2020 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

金賞

小樽板翔倉庫

阿部 大翔

北海道小樽未来創造高等学校建設科建築デザインコース



小樽運河に面して運河建設と同時期に建った北海製罐第三倉庫は 97 年の歴史を終え、現在閉鎖されている。本計画は、北海製罐第三倉庫をスケボーパークとして再生活用する提案。スケボーの滑走フィールドがない小樽に通年利用できるインドアのスケボーパークの提案は、ユーザーに魅力のある内容で、プランに運河の地図をモチーフにしてアイデアや屋根をくり抜いたアウトドアのスケボーパークは外観から想像できない提案であり、全体として変化に富んだ再生提案となっている。全体を貫くプレゼンテーションも会話が流れるようなユニークな新しさが評価された。(遠藤謙一良)

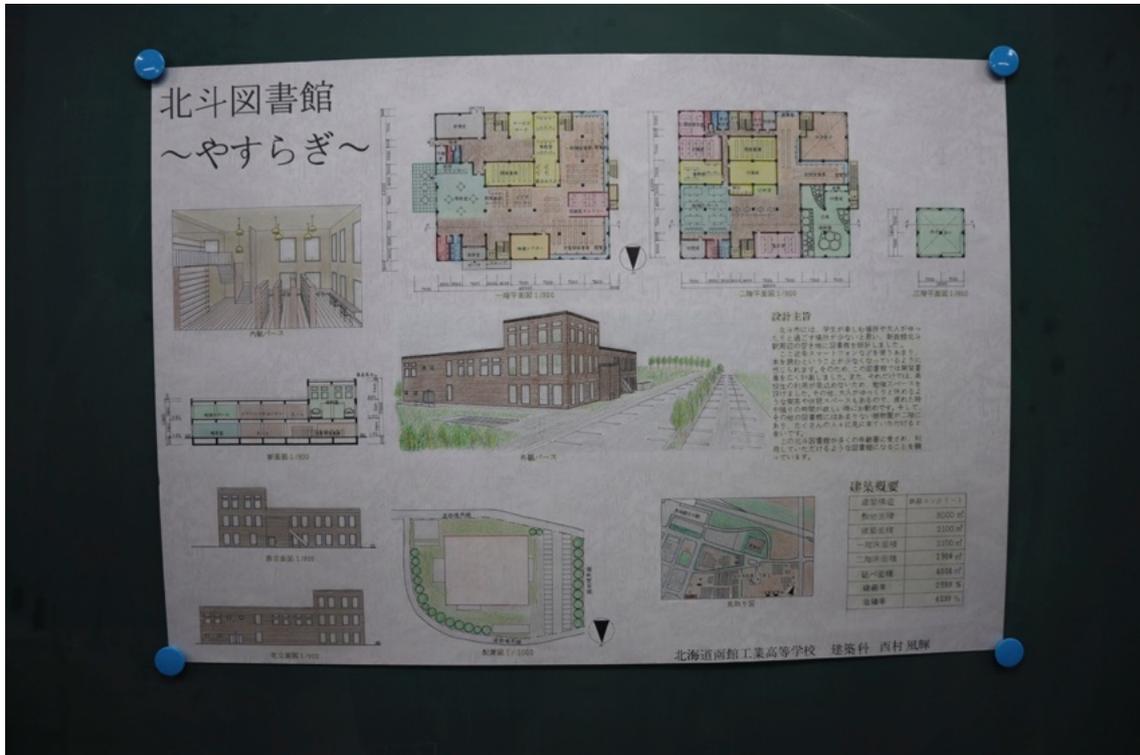
2020 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

銀賞

北斗図書館～やすらぎ～

西村 風輝

北海道函館工業高等学校建築科



新幹線駅のある都市でありながら、若者の居場所のない駅周辺地区に着目し、学生も市民も利用できるやすらぎの図書館の提案である。高校生の勉強の場、大人が利用できる喫茶室や植物園（温室）など、複合化という最新の図書館の試みまで踏み込んでいる。多くの諸室が必要な図書館としても丁寧に計画されている。地域の課題から図書館計画まで丹念に描かれており、高い評価を得た。よってここに、銀賞を与えるものである。（斎藤文彦）

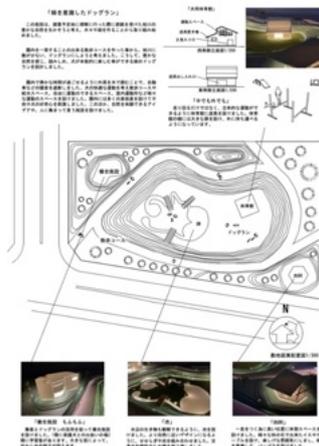
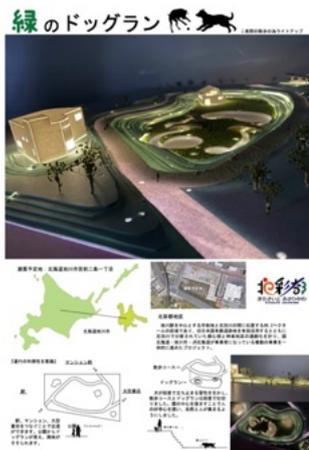
2020 年度卒業設計優秀作品 工業高校の部

銅賞

緑のドッグラン

三上 航平

北海道旭川工業高等学校建築科



旭川は日本一の動物病院があり、全国的にも知られている。旭川駅を中心に、都心部と神楽地区の連結。木々や湖の構築。室内の遊び場や複合施設。「四阿」と呼んでいる、休憩スペースなどどれも楽しげである。夜のライティングも見事である。人と犬の共存はこの敷地や地域の人々のコミュニケートの場にまで昇華されている。「もふもふ」と呼んでいる複合施設は、ビジターセンター機能や学習塾や資料コーナーもあり子供達や動物達のふれあいや学びがこの施設を通して凝縮している。この建築で、人と犬の橋渡しをしている。建築の役目はちっぽけだが、その夢は大きい。(中山真琴)